

この時代に私はどう生きるか

神奈川県
神奈川県立海老名高等学校
本多 桜子

この時代を一言で表すとしたら、私は「錯乱」と答えます。機械化が進むことで今ある職場がなくなっていく、将来への不安が広がっているからです。インターネット上では様々な情報が錯綜しています。その中では将来の見通しもままならず、右往左往してしまいます。世界に目を向ければ、貧困、飢餓、環境破壊など挙げたらきりが無いほど問題が山積みです。今では、ホープレスという言葉もよく耳にするようになりました。

このような時代でも、私たち学生は事あるごとに将来の夢や見通しを問われます。どんな職業に就きたいか、そのためにどこの大学へ進学したいか、文理選択はどうするかなどです。そのたびに、私たちは悩み、困惑してしまいます。

私にも迷っていた時期がありました。自分が就きたい職業がなくなるかもしれないと不安に思うことがあったのです。そんな時、少林寺拳法部に入部しました。初めての練習で鎮魂行を行った時、聖句の最初の文言に心を動かされました。それは、「己こそ己の寄るべ、己を措きて誰に寄るべぞ」です。それを聞いた瞬間、どこかふわふわとした自分の将来に対して、何をしていくとはっきり言い切れないような不確かさが吹き飛んだような気がしました。この先何が起きたとしても、その判断をしたのは、他ならぬ自分であり、後ろを振り返ることなく前進していけばよいと思ったのです。

では、頼れる自分でいるためにどうするべきなのか。私は、自分の核となるものを見つけることが大切だと思います。その核を中心にして生きていくのです。

私の核は、「自分らしく生きる」ということです。私は小学生の頃に転校をして、1年後に元の学校に戻った経験があります。先生から以前この学校に通っていたことがあると紹介されましたが、クラスメイトに「こんな人いたっけ」と言われました。自分の存在が否定されたようで、とてもショックでした。そのことから私は、誰かの印象に残る人になろうと決意しました。自分にしかできないこと、自分らしいことをやっていこうと思うようになりました。それが私の核です。その核を中心に、中学校では人見知りを克服して学級委員を3年間務め、高校では文化祭のクラス代表として企画を作り上げました。今回、弁論の部に参加したのも、自分の核をより確固としたものにしたいという思いからでした。

人それぞれ、全く違った核を持っていると思います。その核を中心に生きていくことで、迷っても自分らしい判断ができたり、後悔せず前に進めたり、新しい自分に出会えたりするのではないのでしょうか。

不透明なこの時代にあっても、私は「己こそ己の寄るべ」を忘れずに、自分の核を大切にして生きていきます。